

校長室の小窓から・・・

—No.19— 令和8年1月8日（木） 金光八尾中学校高等学校 校長 松井 祥一

向上心を持って前に進もう！

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひします。

オンライン化が進み、今回の大学入学共通テストから「Web出願」となりました。今後、デジタルトランスフォーメーション（DX）のさらなる加速が予想されています。

学校におけるDXとは、データやデジタル技術を活用して、学習方法を根本から変革し、教育の質を向上させるとともに、教職員の負担軽減や効率化を実現する取り組みのことです。

2007年、アトランタでISTE（国際教育技術学会）というアメリカ最大の教育工学会が開催され、私は大阪大学の研究チームとともに参加し、当時の最先端ICT教育を視察しました。日本ではよくやくインターネットが普及し始めた頃でしたが、学会の主な研究テーマは「遠隔共同作業」でした。ネットワークを用いて、遠く離れた所からリアルタイムでコミュニケーションをとりながら、共同作業を進めるというものです。成功した実験、失敗した実験が多数紹介されました。

あれから約20年、学校でもWifiが飛び交い、一人一台の端末で学習する機会が増えました。ハイブリット授業は「遠隔共同作業」の一種と言えましょう。しかし、DX化はメリットばかりではありません。考える力の低下や情報漏洩、不正アクセスなど、いくつも課題が指摘されています。教員はDX化に翻弄されないようスキルを高めるとともに、生徒たちは学習目的をもってタブレットを活用し、「充電切れた」「パスワード忘れた」などと無意味な時間を費やさないようにしなければなりません。

私がアトランタで見てきたように、DX化にも数えきれない「トライ＆エラー」という試行錯誤が繰り返されてきました。こうした「トライ＆エラー」のエネルギーは「私たちの生活を少しでも良くしたい」という前向きで力強い心意気です。それを「向上心」と呼ぶのです。その向上心を形にするには、目標を持って計画的に行行動を継続しなければなりません。

2026年が幕を開けました。今年の干支は「午（うま）」、前へ進む象徴です。さあ、失敗を恐れず勢いよくスタートしてみませんか。

